

石城郡友會の建物、 仙台から無償交付

新らたに福島若松へ 舎屋と財産を處分して

郡制時代石城郡で歩兵二十九聯隊入營兵の便をはかつて仙台市に郷友會事務所を建設したが其後郡役所廢止と同時に舎屋並に財産は縣に移管されまた歩兵第二十九聯隊も軍縮の結果若松市に移轉されたため仙台市のそれは不必要となつたため石城町村長會が過般來財團

メーデーは迫り

平署の神経尖る

嚴重取締の方針らし

來月一日のメーデーに際し日本坑夫組合、常磐地方聯合會では炭礦を中心として示威行烈をなすが或は郡山邊へ出て同地の運動に参加する事となるかの何れかに決定するものと觀られてゐるが昨年行はれた石城地方のメーデーは恰も入山炭礦の爭議最中であつたためその筋の取締指示頗る嚴重でこれによる時は殆んど示威行列等の擧に出づる事が出来ない底のもので別に當日を

空瓶を拾つて稼ぐ

一巡り五十錢

春だ花だど世は擧げて歡樂の限りに酔つてゐる折柄愉快のがげに正反對の哀愁否世相の反映でも言ふべき妙な職業が発見されてゐる夫れは毎日毎夜花よ酒よとさんざめく人達が呑み切つて棄て行くビール酒サイダーなどの空瓶を拾ひ集めてこれをくす屋に持つて行つて何程かに仕切つて貰ふ商賣がある、先づ斯うした拾

ひ手は子供に多く一本一錢から二錢で問屋へ持つて行くのだそうであるが、それでも他人より早く平の松ヶ

平町青年團が 東京博覽會を見學

會費は三圓五十錢

足りない處は本團から補助

平町青年團にては目下東京上野公園に開催中の御大典記念博覽會を見學せんが爲めに團体を組織する事となつた團體員の資格は青年團員たるべき事は勿論農藝期に入れば汽車の旅も樂であらうと期日を來月廿日と決定したが同日朝の準急行で平驛を出發し博覽會場内を一日を暮し上野驛前で解散其後は團員の自由行動に委してあるから序でに用事を果すも可なるべく、また家の都合では其儘歸りの汽車にも充分暇があるといふ段取りで會費は三圓五十錢足りない所は本團の補助であるから一名でも多くを募つて行き度いとの事である

保菌者監視

町内は限なく 消毒を施して

平町に於ける腸チフスは益々猖獗を極めて居り本縣内の腸チフス患者百名の中三分の一の患者が居る程で町民は極度の不安にかられて居るが平町當局では平署と共に十八日から患家部落並に患家と交通關係あるものゝ糞便を檢査して保菌者之を嚴重監視することになつた此外下水道其他微菌發生のおそれある場所を嚴重に消毒する由である

九月に延期

新築工事中にて

平町縣社子鐵倉神社は目下改築工事中にて豫定通り來月半に上棟式を舉行し九月頃新殿全部完成の都合であるが従つて目下は境内混雜且つに遷宮中と本年の例祭(五月八日)は九月の正遷宮時迄延期することになつたと

牡馬補充檢査

石城産馬畜産組合では昨年七月専任技術員一名就任以來極

力種牡馬の改善を計つて來たが本年は優秀種牡馬リントン、スパーリ及びセルホレーハアロネード其他の交付を乞ひ廿三日上遠野澤渡村廿四日田人村の三ヶ所に於て種付及び牡馬補充檢査を執行し益々産馬の改良を計る事となつた

丹後澤で鯉釣

廿二日の日曜日に午前五時から

丹後澤で鯉釣大會を催す由會費卅錢

ジャガ芋が

焼いて罪あり

石城郡磐崎村大字力石渡邊豊助所有の山林から發火し雜木林二丁歩を焼いた山火事の原因は同村上湯長谷長倉炭礦坑夫小七郎養子同村高等科二年生、高橋小一郎(一)假名同新三郎三男高等一年生皆川十九三(一)假名

募集

文藝其他投稿を募集します

平町人事

出生

鎌田町三九坂倉清松氏二女惠久子

死亡

八三丁目二一森村一枝(三)

雛祭りの沿革 (二)

事實上雛祭の創始期は詳でないのですが、山東京傳もその著書『骨董集』に於て天正以後と解釋して居ます、而して形代が雛に轉化したものである爲め、雛祭の初期に於ては、災厄を禳祓すると云ふ形代と同じ意義の許に行はれてゐたもので漸次に雛人形を飾ると云ふ形式的の行事に變化したのであります

隆盛期

扱て、雛祭りが完全に構成されたのは徳川期に入つ

てからで、その最も隆盛を極めたのは享保以來と想像されます。享保時代は、民心漸く泰平に馴れ、十氣額廢棄の風が靡蔓した結果、雛人形も頗る華美になつて終には二尺餘の極大雛が流行する傾向を生み出した後將軍徳川吉宗が世態を刷新し、華美を戒めて、雛人形も八寸以上のものを作ることを禁止したとさへ傳へてゐます「嬉遊笑覽」兒戯の部に

立雛と内裏雛

かくして雛人形は時機の

止之儀有之由申越に付越前守儀へ伺候へば、右裝束より上拵へ不申並金入鍛子之裝束させ候儀無用可仕候人形問屋共書持参候事と記載されてゐますので如何に當時の雛人形が華美であつたか推測されます併し乍ら時局は轉回し吉宗以後徳川の政治も施廢すれば従つて雛人形も再び美を好む潮流に逆上り次期の寶曆明和には、古雛中隨一と稱させられる次郎左衛門雛が出現して壓倒的人氣を獲得するに至りました

變遷と共に形式品質共に異なりすが所詮は立雛と内裏雛の二種類を出でません、立雛は又神雛と稱して雛祭りが未だ上巳の節句に一定しなかつた前所謂雛遊びに兒童の對象物であつた雛人形の系統に屬するもので、これは徳川期に入つて雛祭り完成されるに及び漸次衰微して中期以後には全く内裏雛に歸食されてしまひました、その變型と見るべきものに絲雛、奈良雛、銀鷄雛等があります、反對に内裏雛は徳川期に入つての産物でもあり急進的に迎へられてその初期の寛永雛を初め享保雛次郎左衛門雛の流